

ようこそ！ 松戸の森へ



身近にある
小さいけれど本物の森

森を楽しみ、森をはぐくむ
心が開放されるひとときを・・・

松戸の森のはなし



矢切の斜面林

森って いいよね！

わたしたちは森の緑を目にしたり、鳥のさえずりを耳にしたりすると心が癒されます。森は空気をきれいにし、夏には涼しい風を生み、小鳥や虫たちの生きる場所であり、虫捕りをしたりドングリをひろったり…子どもたちにとっては楽しい遊びや体験の場でもあります。



幼稚園から森へお散歩

残りわずか…松戸の樹林地

かつては人々の暮らしを支えていた里山の樹林地…適度に人手が入ること
で守られ、いろいろな生き物の“命輝く
自然”がありました。しかし松戸の民有
林は減り続け、現在ではほんのわずかな面積となりました(2020年度には
99ha、市域の1.6%)。都市部に残され
たわずかな森は今や“地域の宝”です。

所有者の現状

先祖から引き継いだ森を、そのまま残したいという思いで持ち続けていても、今では何の経済的価値も生み出しません。そればかりかゴミの不法投棄や近隣住民からの苦情など、苦勞が大変多いのです。

仕事を持っていたり高齢だったり、思うように森の手入れができていない状況です。



森の中には不法投棄のゴミが散乱



関さん宅と屋敷林

緑を愛するひとびとの動き

生き物たちをはぐくむ森を、何としてもそのまま残したいという所有者の思いから、公益財団法人に寄贈された「関さんの森」では、その森を保全するため 1996 年市民グループが活動をはじめました。

樹林地の減少を何とかくい止め、緑を守りたいという思いは、市民、所有者、行政共通のもので

2002 年森の所有者は「松戸ふるさと森の会」を設立しました。

行政も 2000 年、条例に基づき「緑推進委員会」を設け、この委員会において「里やまボランティア入門講座」が 2003 年に始まりました。

その後講座は市民と行政との協働で毎年行われており、その修了生が里やま応援団として、所有者の理解・協力と行政の応援を得て森の整備活動を始めました。勉強会を行ったり情報を共有する仕組みを作ったりと、自主的に活発な活動を展開しています。また、市の公園や緑地でも市民ボランティアが頑張っています。



里やまボランティア入門講座

一方行政は市内の樹林地について緑の条例による「保全樹林地」「特別保全樹林地」の指定を推進し、重要な樹林地については都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」に指定し、将来に渡って保全しています。(現在、矢切、栗山、幸谷の3地区)

オープンフォレスト in 松戸の開催

2012 年、市民に身近な森を知ってもらい、楽しんでもらい、その素晴らしさを感じてもらおうという、日本で初めてのイベントが行われました。森で活動している市民ボランティアの発案で実行委員会を立ちあげて実施したもので、その後も毎年開催しています。



オープンフォレストで楽しいひと時

本気で虫捕り



森の音楽会



田植え体験



森での体験

高校生も大活躍



あそび
まなび
いやし



タケノコ掘り



発見がいっぱい



ボランティア体験

竹馬体験



森のヨガ



木登り



オープンフォレストでも



この葉っぱやわらかいねー



初めてのノコギリ



お父さんの休日



朝のミーティング



竹林整備

森の活動



道路に張り出した枝の処理



下草刈り



炭焼き



あなたも森の仲間になりませんか？



安全講習会



キッズ隊の活動



落ち葉掃除は大切な仕事



仲間との懇親交流



不法投棄とのたたかい



湧水池の清掃

森の自然とは・・・

森の生態系・・・いろいろいるから森なんだ！

木がたくさんあるだけでは森とはいえません。背の高い木、背の低い木、樹の下の草やコケ、落葉の層、フカフカの土、そしてそこにたくさんの生き物がいていて、初めて“森”と呼ぶことができるのです。

命のつながり・・・嫌われ者も役立っています！

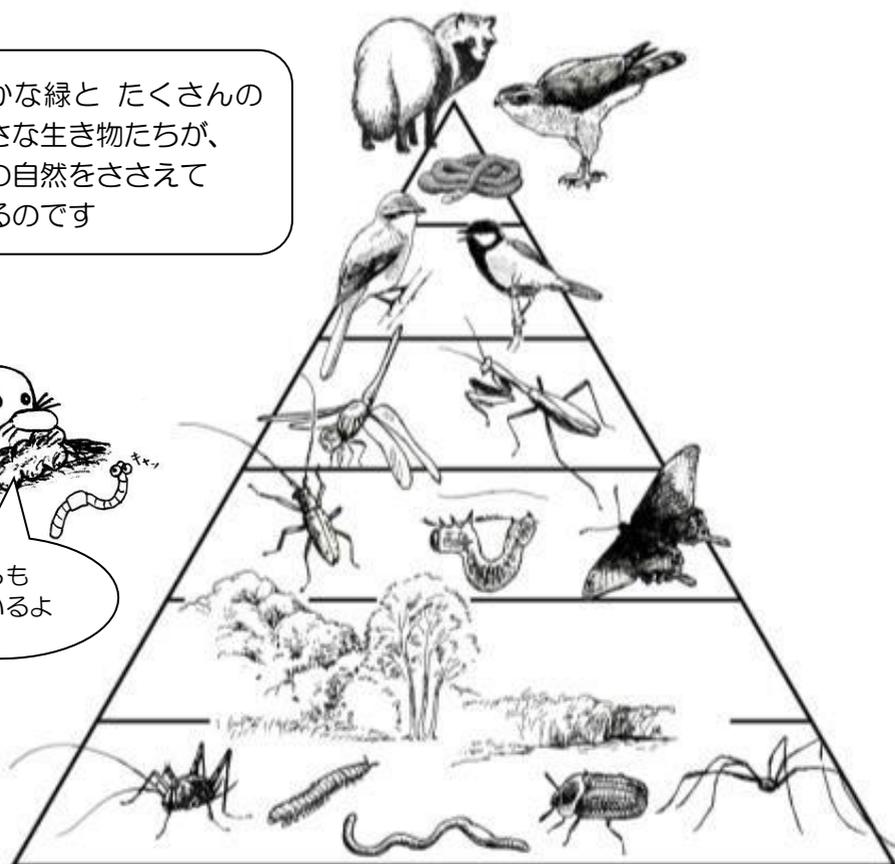
森には、【木や草】→【蛾の幼虫】→【カエル、カマキリ、小鳥】→【オオタカ、フクロウ】のように、“食う食われる”の命のつながりがあります。

落葉や枯れ枝、動物の死骸や排泄物を分解する生き物も含め、不要なものは何ひとつありません。ヒトからは嫌われがちな蛾・毛虫やクモなども棲むおかげで、小鳥たちは子育てができるのです。

豊かな緑と たくさんの
小さな生き物たちが、
森の自然をささえて
いるのです



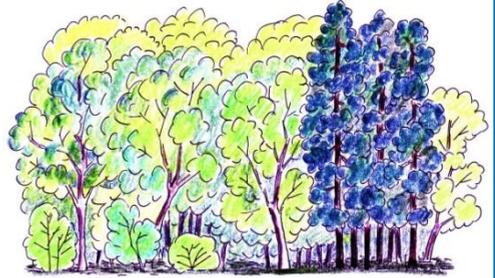
ほくらは
森にいるよ



生態系ピラミッドの例（絵：平岡考）

《森には発見がいっぱい！》

森には発見がいっぱいあります。森には木がたくさんありますが、木の中にも高いものや低いもの、太かったり、細かったり、また木の葉っぱも、丸めで広いもの、細長くて針のようなもの、つやつやしたものやざらざらしたもの、大きな手のひらのようなもの、においをもつものなどさまざまです。また森では思いがけないところにきれいな花が咲いていたり、落ちていくかわいらしい木の実を見つけたりします。



森に入ると、そこをすみかとするヘビ・トカゲ・カエルなどの動物や、葉っぱを食べる昆虫や木の幹をかじる昆虫、そしてそれらの昆虫や木の実を食べる小鳥、さらにその小鳥をねらうタカなどの大型の鳥など、さまざまな生き物たちにも出会うことがあります。また、森のふかふかした土や落ち葉の中には動物の死体を食べるシテムシや落ち葉を食べるミミズやダンゴムシ、それに落ち葉や枯れ枝などを分解(ぶんかい)するキノコのもとになる菌類(きんるい)など、小さな生き物もたくさん住んでいます。

このように森は多くの生き物に住むところや食べ物を提供しています。でも一方で、森の木も成長するためには土の中の養分が必要です。その養分を含んだ土は、鳥などの動物の死体や、枯れた枝や落ち葉などを土に戻すはたらきをする小さな生き物とキノコなどの菌類などはたらきによってつくられています。森は、たくさんの生き物の生活を守っており、そしてたくさんの生き物が森を守っていると云えます。



さあ、そんな森に入って何か新しい発見をしてみましょう。

松戸の森で見つけよう！

森によって、季節によっても、見られるものはちがいます



フクロウ

大木のウロで子育てをする。ゴロスケホーホーと鳴く。松戸の夜の生態系ピラミッドの頂上に位置する鳥。



コゲラ

ギ〜ツと鳴く小さいキツツキ。コツコツと幹の中の虫を探す。枯れ枝に掘った穴で子育てをするので、森の枯れ木は必需品。



シジュウカラ

森の芋虫・毛虫で子育てをする。ネクタイ模様が太いのが雄。ツピーツピー、ジュークジュークなどと鳴く。



エナガ

小さな丸い体に細くて長い尾。忙しく動きまわり、ジュリジュリと銀のネックレスをこすり合わせる音のような声で鳴く。



カナヘビ

長いしっぽが特徴のトカゲ。小さな生き物を食べる。光沢があるトカゲはニホントカゲ



オニヤンマ

トンボの幼虫は水の中で育つヤゴだが、羽化してから成熟するまで、森などでエサを捕って過ごす。



カマキリ類

オオカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリの4種類がみられる。



ジョロウグモ

その美しさから上臈（身分の高い高貴な人）の名が付いた。森で蚊をたくさん食べてくれている事だろう。



ナナフシ（ナナフシモドキ）

葉を食べて育つ。枝に擬態しているので、なかなか見つからない。写真は赤ちゃん。



ナガサキアゲハ

森の中でよく見かけるようになった黒いアゲハチョウ。季節や雄雌で若干色柄が異なるが、後翅の突起が無いのが特徴。



オオミズアオ

大きくて美しい蛾。幼虫はいろいろな木の葉を食べて育つ。蛾の幼虫は小鳥たちの大切なごちそう。



クマバチ

蜜や花粉を集めて子育てするハナバチの仲間。大きいけれど、いじめなければ刺すことはない。



タマムシ

金属光沢のある美しい甲虫。幼虫はエノキやサクラなどの弱った木や枯れ木の材を食べて育つ。



エゴツルクビオトシブミ

エゴノキの葉を食べる。卵も葉をクルクルと上手に巻いた中に産み付ける。



イヌシデ

ぶら下がる実の房を神社の四手に見立てた。縦波模様の樹皮を目印に探すと、きつと見つかる！



エゴノキ

明るい森や林縁でたくさんの花をつける。下向きの花はハナバチの訪問を待っている。



スイカズラ

林縁に多いツル性の木。夏に咲く花の色は白から黄色に変わる。香りと蜜で虫を呼ぶ。



ガマズミ

明るい森の中や林縁でよく花をつける低木。秋の赤い実はとても酸っぱいが、鳥にはごちそう。



ウグイスカグラ

林内の低木。春先に小さなピンクの花を咲かせ、5月に透明感のある美しい実がなる。



タチツボスミレとキタキチョウ

早春の明るい林をいどる花は、成虫で越冬したチョウやハチの大切な蜜源。



キンラン

荒れた林を整備して明るくなると、シュンラン、キンラン、ギンランなどの花が多く見られるようになる。



ハナオチバタケ

森の落葉や枯木を栄養にして育つキノコは、有機物を分解し森の肥料にしてくれる、大切な森のメンバーだ。

松戸の森に関する団体など

さまざまな人たちが、緑を守る活動や仕事をしています。実際に森で活動しているオープンフォレスト実行委員会の団体については、ガイドブック後半の「松戸の森のご案内」にて紹介しています。

松戸ふるさと森の会

(連絡先:366-7378 みどりと花の課)

残された緑を守り、貴重な自然環境を次世代に引き継ぎたいと願う山林所有者の団体。2002年5月に結成。都市環境保全林に関する国への陳情、視察研修会など。

松戸里やま応援団連絡会

(連絡先:345-6086 野口功)

「里やまボランティア入門講座」の修了生が設立した里やま活動団体の連絡組織。共通する課題の協議やステップアップ講座などを実施している。

松戸里やま応援団 いいなの会

(連絡先:090-6026-5428 淵上和宏)

2019年の「里やまボランティア入門講座」の修了者により結成された会。他の会が活動中の森の作業に参加しつつ、自らの会の活動対象の森の決定に向け交渉中。

Save the Green @Akiyama

(連絡先:090-6472-2131 西マリヤン)

毎月第4土曜日に「秋山の森」で季節を感じるイベントを企画し、同時に森のお手入れ活動を行っている。「森育あそび教室」等を通じ若い世代に積極的に参加を呼び掛けている。

河南環境美化の会

(連絡先:391-6844 高橋清)

市内河原塚で第1号古墳が残る森の雑木及び古木の整備を行い、広場では森林浴をしながらのグランドゴルフも楽しんでいる。又、年2回の国分川の清掃、緑花推進などで活動。

緑のネットワーク・まつど

(連絡先:090-2935-9444 高橋盛男)

豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることを目的に、2000年に発足。観察・学習ツアーを年3回実施。市内のみどりに関する情報を掲載した通信を発行している。

関さんの森エコミュージアム

(連絡先:090-9156-4960 木下紀喜)

長い時間をかけて形成されてきた関さんの森の自然と歴史遺産をそのまま保全し、生きた形で自然や文化を体験学習する場として整備・活用することを目指している。

千駄堀を守る会

(連絡先:090-4667-0209 山田純穂)

市内で最も自然が残る千駄堀地域(現「21世紀の森と広場」)の豊かな生態系を守るために作られた自然保護団体。毎月第四日曜日に自然観察会を実施し記録を残している。

松戸市みどりと花の課

(連絡先:366-7378)

樹林地の保全、街路樹・公共緑地等の管理、民有地の緑化推進、花いっぱい事業の推進、緑のボランティアの育成などを行っている。

松戸市公園緑地課

(連絡先:366-7380)

公園緑地の計画、新設、改良、維持及び運営管理に関する業務を行っている。市民との協働による事業展開も図っている。

松戸市緑推進委員会

(連絡先:366-7378 みどりと花の課)

緑の保全及び緑化の推進に関する基本的事項を調査審議する市長の諮問機関。

第一回の里やまボランティア入門講座を実施した。

みどりの行動会議

(連絡先:366-7378 みどりと花の課)

松戸しみどりの市民憲章を普及・定着させるため、イベント等を企画・実践している市民ボランティアの集まり。「みどりのマップ作り」「七夕プロジェクト」などを行ってきた。

(公財)松戸みどりと花の基金

(連絡先:710-2851)

広く市民の自発的・積極的な参加を得て都市緑化の推進を図り、緑豊かな潤いと安らぎのあるまちづくりを推進することを目的に、その活動と支援事業を展開している。

オープンフォレスト in 松戸 実行委員会

(連絡先: 090-3313-0921 事務局)

2010年より始動。みんなで協力してオープンフォレスト in 松戸を開催している。

実行委員長:柳井重人(千葉大学)

構成団体:松戸ふるさと森の会、松戸里やま応援団一起の会、同囲いやま森の会、同三樹の会、同四季の会、同里やまV・千駄堀、同小浜の森の会、同七喜の会、同八輝の会、同里やまQ、同みなみの森の会、同樹人の会、同甚左衛門の森の会、同樹護の会、松戸里やま応援団、関さんの森を育む会、溜ノ上レディース、根木内歴史公園サポーター・根っ子の会、緑のネットワーク・まつど。

松戸みどりの市民憲章

私たちのまわりには、樹木、草花、水、土、空そしてさまざまな生きものから構成される**みどり**が存在しています。私たちは、自身と輝かしい未来を担う子どもたちの幸せのために、これまで育まれてきた**みどりの**財産を分かち合い、守り育て、豊かにしていきます。そのために、市民・企業・行政の三者が、それぞれの立場において、**みどりの**もたらす恵みに想いをはせ、自覚と責任、対話と協働に基づいて行動します。

1. 松戸市民は**みどり**と暮らす豊かさを大切にします。
1. 千年来の**みどりの**声に耳を傾け、百年後のみどりを育てます。
1. 子どもたちの夢とあそびを受けとめる**みどり**をいっぱいにします。

平成 16 年 10 月 1 日制定